

対応困難な家庭への 支援策について考えるゼミ

令和7年 8月5日(火) 15:00~16:30

▶ 那珂市教育支援センター
スクールソーシャルワーカー 木田 佑

本研修の概要

SSWとして市内の小中学校への学校訪問や家庭訪問の中で...

- ・不登校の相談（特に小学校低学年の相談の増加）
- ・ヤングケアラーが疑われる生徒に対応についての相談
- ・病気や障害のある家族がいて支援が困難な家庭の相談

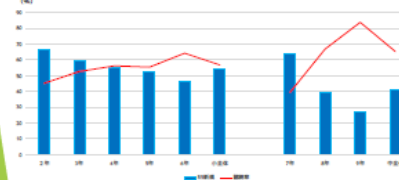
⇒ 困難な課題を抱えた家庭への支援ニーズが高まっている。
このような困難な事例と関わる時に、
どのような支援や視点を重視したか、事例検討等を通
して複合的困難家庭への理解を深めるゼミにしたい。

研修の流れ

- I. 不登校支援の現状と
不登校の予防支援ニーズの高まりについて
- II. グループワーク（複合的困難事例）
- III. 困難事例への対応について
- IV. 質疑応答

不登校支援の現状について

公立小中学校の不登校児童生徒の
不登校継続率と新規率の推移



【新規率】
R5年度の不登校の中で、
R4年度は不登校ではな
かった児童生徒の割合

【不登校継続率】
R4年度からR5年度にかけ
て不登校が継続されている
児童生徒

『児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する
調査結果』(文科省HP)より

どういった子が不登校に陥りやすいか

不登校リスク因子を抱えている子ども達の一例

- ・ 近い関係の人の中に不登校経験者がいる
- ・ 過去にも登校ぶりや不登校の経験がある
- ・ 苦手な事、困難なことを回避したがる傾向がある
- ・ 教育的アプローチ（指導、注意）への敏感さ
- ・ 生活リズムの乱れが激しい（欠食、居眠り等）

その他にも

学力不振、交友関係の乏しさ、情緒の不安定さ、
発達特性、保護者のネグレクト傾向等 様々な背景



子どもとの 予防的な関係作り ～より良い自己像の育み方～

支援の基本視点

子どもの行動を増やす・減らす関わり

問題のない様子や望まし
い様子の定着・常態化を
目指す関わり

正の強化（予防的支援）
(褒め、承認、報酬等)

不適切な行動や望ましく
ない様子の消去・低減化
を目指す関わり

負の弱体化（対応的支援）
(指導、注意、罰※等)



負の弱体化にも予防的支援
はあるが、内発的な動機を
育てて適切な行動に効果が
出やすいのが正の強化。



予防的支援には行動と動機
が付き、より強い指導や注意
が効果になることがある。
結果、子どもは思いどおり
になっってしまうことも。

褒めの目的を考える

『子どもの良い行動』を増やすには

やった事実や結果を褒めるというよりは、
その子の『良いところ』や『具体的な行動』に
フォーカスした声かけの方が効果が出やすい。

- (例) 絵を描き上げた子に対する声かけ
『すごいね』『うまいね』
⇒ 『この部分とても細かく描けたね。』
(例) 課題を達成した子に対して
『よくできたね』

- ⇒ 『集中してドリルを頑張ったね。』
『縄跳び最後まで頑張って跳べたね』

自分の良いところを認めてくれる
大人との関係性がベター。
このような関わりを続けることで、
子どもの内発的な動機が高まり、
適切な行動が増えていく。



感想一覧

- ・できたこと頑張ったことに焦点をあて、具体的に褒めていたり、子どもに積極的に関わったりして学校が子どもにとって居心地の良い場所になるよう頑張っていこうと思った。
- ・今までケースを考えると、介入点と具体的支援を分けていなかったのが、今回の研修で余白をしっかりと考えられるようになったと思う。今後、「あの子」に限らず学級の子全体に対しての「何が必要なのか」を考えて、一人一人に接していきたい。
- ・学校だけで何とかしようとせず、様々な機関や SSW 等と協力して支援していくことが大切だと思った。
- ・決めつけをせず、余白を大切にしていきたいと思う。2学期からできそうなことを少しずつ実践していきたいと思う。
- ・事例検討をして、「私は決めつけ」をしてしまった気がする。あらゆる方向から検討していける目をもてるように精進していきたい。
- ・保護者の Want と Needsの重なりを意識して支援していくことを大切にしていきたい。自分の決めつけを押しつけないようにしたい。
- ・事例について考えていくワークは、大変勉強になった。私自身なかなか考えられず、発言できなかったが、先生方の具体的なアプローチが参考になった。特別支援は難しく、手探り状態だが木田先生の講話や資料を読み直して勉強して実践していきたいと思う。
- ・困難な事例については、どうしてもできないことを中心に考えてしまうことが多いが、その中にも介入点やできることがあるということが分かり、とても勉強になった。できることを相談して接することが大切だと分かった。